

## 市中病院におけるリアルタイム PCR 法での SARS-CoV-2 変異検出の推移

◎中村 早希<sup>1)</sup>、藤原 由妃<sup>1)</sup>、西尾 美帆<sup>1)</sup>、西村 はるか<sup>1)</sup>、辻 佐江子<sup>1)</sup>、宇城 研悟<sup>1)</sup>  
松阪市民病院<sup>1)</sup>

【はじめに】SARS-CoV-2 感染症は 2019 年 12 月以降、短時間で全世界中に広がり、様々な国や地域から変異株の発生が報告されている。本邦でも従来株から変異株への置き換えが急速に進んでおり、変異によって感染力が高くなることやワクチンの効果が低下する恐れがあることが指摘されている。【目的】当院では、院内検査とは別に松阪地区医師会臨床検査センターと松阪市 PCR 検査センターより SARS-CoV-2 の PCR 検査を受託し、松阪市内での検体の多くを扱っており、陽性検体においては変異株のスクリーニング検査を実施している。SARS-CoV-2 検出率や変異株の発生動向を把握するために当院での検出頻度の推移を調査した。【対象と方法】対象は、2021 年 1 月 4 日から 2021 年 10 月 31 日において SARS-CoV-2 に対するリアルタイム PCR 法を行った 1933 例。陽性検体に対しては、リアルタイム PCR 法にて N501Y、E484Q、L452R 変異検査を行い、検出頻度を後ろ向きに調査し、週別で集計した。これらを松阪市や三重県、東京都で報告されている検出状況と比較した。【結果】当院での SARS-CoV-2 陽性は 147 例で、

最も多かった週は、33 週（8 月中旬）であった。変異株の内訳は、N501Y 陽性が 37 例で L452R 陽性が 96 例、E484Q が 0 例だった。陽性検体のうち L452R 陽性の割合は、30 週で 57%だったが 33 週には 93%を占めていた。また、松阪市で SARS-CoV-2 陽性が最も多かった週は、当院と同様に 33 週、三重県は 34 週、東京都でも 33 週であった。

【考察】当院における SARS-CoV-2 陽性のピークは松阪市と同様に 33 週であり、東京都と比較しても大きく変わらないため当院での検査は SARS-CoV-2 感染状況をリアルタイムに反映しているといえる。しかし、L452R 陽性の初報告日は、東京都と当院で差があることから、都市部での新たな変異株の報告をすばやく察知することで、次の変異株への迅速な対応が可能になると考えられる。【まとめ】院内で SARS-CoV-2 リアルタイム PCR 検査を行い、新型コロナウイルス感染症の状況をリアルタイムに知ることで、都市部の新たな変異株の検出を迅速に察知し、松阪市の新型コロナウイルス感染症対策に大いに貢献できると考えられる。

連絡先 0598-23-1515（内線 240）